

あんなとこ、こんなところ 地域の身近な 歴史スポット ④

がスクール ⑧ 秘められたパワー 確かな実力 八十年の伝統 杉並区立杉並第六小学校

落ち着いた学校

中央線、中杉通り、高南通り、青梅街道でつくる四角形の中心にあり、閑静な住宅地に位置しています。児童数三三八名、学級数十二、現在では平均的な規模の学校です。派手さはなく、特に目立つこともありませんが、落ち着いた中にも秘められたパワーを持ち、一つ一つの行事や学習活動には他校にも誇れる確かな力を発揮します。鈴木清子校長を中心に、教員をはじめスタッフが充実した「確かな力が育つ学校」です。

学力・体力の向上

平成十六年度には、杉並区教育委員会の研究奨励校として「国語」と



体力向上・運動会

「算数」の指導法について研究発表を行いました。その成果は「読書タイム」「計算タイム」「言葉タイム」「チャレンジタイム」として生かされ、子どもたちの学力・体力の向上に役立っています。特に「読書タイム」は、保護者・地域の関心も高く、ボランティアの方々にもたくさんご協力をいただいています。

食育/健康教育
ここ数年学校給食でも表彰が続いています。杉六小の給食も誇れるもの一つです。「おいしい給食・残りの少ない給食・一人一人に細かく対応をした給食・楽しい給食」です。献立は他の学校とほぼ同じですが、味にこだわっています。そのため、子どもたちの残す量も非常に少なくなっています。また、十数名の児童に食事のアレルギーマネジメントを実施するとともに、リザーブ給食では、あらかじめ設定されたいくつかの献立から自分が食べたいものを選んで予約することもできます。

さらに本年度は、文部科学省委託事業として「学校を中心とした食育推進事業」を実施しています。また、校内の研究テーマとしても健康教育を取り上げ「命を大切に育てる教育」を進めています。

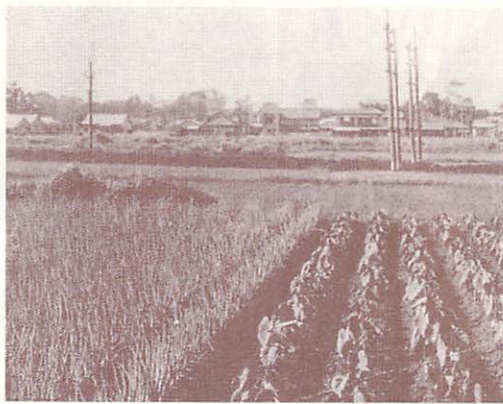
地域の方
このように充実した学校生活があ

桃園川とその変遷

原田 弘

今、桃園川といっても川の時代を思い出される方は少なくなつたのではないのでしょうか。

杉並区を西から東へ流れる神田川、善福寺川そして桃園川は区内の三大川といわれ、その両岸は大きく水田が広がっていたものです。この水田が一番早く宅地化されたのが桃園川で、それは明治二十二年の甲武鉄道の開通と無関係ではありませんし、続く中野駅、また大正十一年には阿佐ヶ谷、高円寺両駅の開設、それに決定的機会を与えたのが関東大震災後の西郊発展政策です。



高円寺駅より南方を望む(大正14年) 佐藤人止氏蔵

しかし、明治四十年代に高円寺町にあった藍染め工場などが廃業して、その跡地へ市街地整備で立ち退きとなった寺院が移転して高円寺寺



大正時代の桃園川周辺/小林信敏氏蔵

町の出現となりました。私どもは新開地と呼んでいました。蛇行して多くの小川などを吸収し流れていた桃園川も真っ直ぐに改修されました。川の両岸に住宅が建てられ道路も真っ直ぐに整備されました。

駅の南へ下ったところに高円寺館という映画館ができ、その前にずらりとカフェーが立ち並びました。作家の平林たい子がいたのもその一軒です。彼女の「砂漠の花」という作品の一節に「高円寺の裏から馬橋にかけて、また田んぼがあった。田んぼのおわりに釣り堀があった。柳瀬正夢氏の住んでいる馬橋の家々のかたまりが、向こうに見えていた」と震災後の情景を作品にとり入れています。

川には橋と橋の間に学校の平行棒

くれるのは、学校だけでなくPTA。地域の力に負うところが大きいのです。日頃の支援はもちろんだ地域行事を中心に児童の健全育成をさせていただいています。そのおかげで、学校でも児童がのびのびと生活できています。次はその一例です。

「かしの木キャンプ村」

本年度で第十一回を迎えた「かしの木キャンプ村」は、PTAを中心として、かしの木会(おやじの会)、高円寺南児童館が協力して行う行事です。全校児童の九割が参加するため、全体を半分に分け、なか日ははさんで前半の二日、後半の二日の三日間で行われます。そのうち四年生以上で百三十名の児童がテントで泊まります。



かしの木キャンプの楽しい食事

「馬橋のどんやわ」

毎年一月に行われるどんやわ焼きは、地域の恒例行事になっています。児童が各家庭を回って正月の飾りを集め、校庭で燃やします。

のような角材がはめ込まれていたのが子供たちはこの上を渡っていました。現在の高円寺図書館のところが杉三小学校で北側は雑木林の斜傾になりその下の処に水が湧いていました。蛙公園など格好の遊び場で軍艦の模型などスクリーンを廻し水を走らせました。宝橋の南の空き地によく「木下サーカス」など架かり皆んな見に行つたものです。



桃園川緑地(現在)

少し雨が降ると川はすぐ満水になり北のエトワール通り、南側の通りもみるみる浸水したが、あと引くのも早かったし、引いた後、石がごろごろしていました。また、馬橋の釣り堀から鯉が流れて来たのも面白く、当時の杉三小学校の校長など学校下の今の大久保通りで膝まで浸かつて児童を渡らせていました。もう六十年余り前のことです。



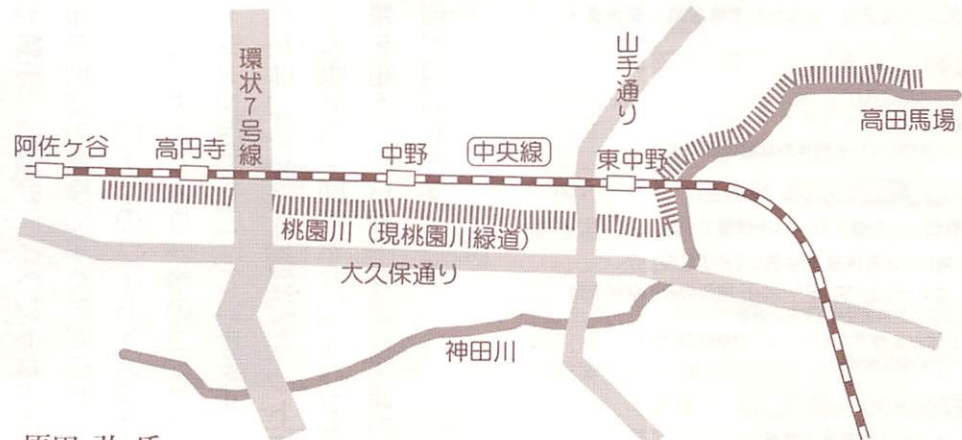
杉六小のシンボルツリー

「音楽を楽しむ会」
阿佐ヶ谷中学校吹奏楽部、杉並学園中等学校合唱部、杉並第六小学校かしの木合唱団が集まり、杉六小の体育館で毎年一度音楽会が行われます。

八十年の伝統
本校は、大正十五年に開校し、来年で八十年を迎えます。一万一千余名の方が本校を卒業されました。その間、第二次世界大戦では、昭和二十年、戦災のために校舎が全焼するという事態がございました。

しかし、幸いにも校庭の「かしの木」は焼け残り、現在に至っています。杉並第六小学校は、その「かしの木」を学校のシンボルツリーにしています。

詳しくは、学校のホームページをご覧ください。
<http://www.suginami6e.suginami-ky.ed.jp/>
検索エンジンなどで調べていただくと簡単にご覧いただけます。
(小山 浩 副校長)



原田 弘氏
杉並郷土史会会長・(元)日本歴史学会会員・杉並区文化財保護指導員・日本ペンクラブ会員

*上記2枚の写真は森泰樹著「杉並風土記」より転載

次号
145号は
11月20日
発行予定